

令和 3 年度 JMAT やまぐち災害医療研修会

と き 令和 3 年 11 月 14 日 (日) 13:00 ~ 15:30

ところ 山口県医師会 6 階 会議室

[報告 : 常任理事 前川 恭子]

JMAT やまぐち災害医療研修会は、JMAT やまぐちプロジェクトチームが企画している。近年のチームのテーマは「被災地 JMAT」であり、昨年度は JMAT やまぐち活動マニュアルの被災地 JMAT 版を作成した。

昨年度お預けとなった集合研修を今年こそはと準備をすすめ、「被災地 JMAT としての初動」と題したグループワークと、e-learning システム (JMAT-e) による事前学習のセットとした。研修会企画当初、COVID-19 流行状況を予測できなかった故の新たな試みである。

1. 事前学習

○ JMAT 総論：日本医師会 JMAT 研修の動画

JMAT の成り立ち、日本医師会の災害医療への方向性

○ 山口県における災害医療の状況：山口県医師会作成動画

災害医療に関連する法律、国及び県レベルの災害医療に関係する組織、県内被災時の各組織の動き

○ 災害医療用語：山口県医師会作成動画

CSCATTT を中心とした用語解説

○ 活動拠点本部：DMAT 技能維持研修 e ラーニング動画

DMAT 活動拠点本部指揮命令系統、本部運営、活動の実際、情報収集

○ 本部運営と記録：DMAT 技能維持研修 e ラーニング動画

本部での情報の記録・整理、クロノロジーの意義・運用

○ 情報の共有・通信機器：日本医師会 JMAT 研修資料編集

EMIS、衛星携帯電話、トランシーバー、災害診療記録、J-SPEED

2. グループワーク

想定は大規模な地震と津波による自地域の被災である。被災地 JMAT として活動する意志のある者の、発災直後の行動からチームビルディング、指揮権委譲、実活動、そして撤収の 5 つの場面を設問とした。進行役の野村先生が被災地 JMAT の位置づけを説明された後、グループで話し合いを開始した。設問ごとに各グループが意見を発表し、野村先生が解説されることを繰り返した。

JMAT やまぐち事前登録者及び郡市医師会災害医療担当役員から募集し、出席者は 23 名であった。1 グループ 4 ~ 5 名 × 5 グループ、被災地 JMAT としての活動であるため、可能な限り圏域ごとのグループ分けとした。ファシリテーターは多職種の構成とし、各グループに 2 名配置した。

以下、各設問と主な解説点を記載する。

設問 1

日曜日の午後、山口県で震度 6 強の地震が発生、家屋倒壊等被害あり、1 時間後に 5 m の津波到達が予測される。まず、どのような行動をとるか。

<解説>

- ・自分の安全、家族の安全、職員の安全を確認する。
- ・強い使命感を持つ医療者は、誰かを救うために危険な状況に入り込もうとするが、まず自分の身の安全を確保することが大切である。

設問 2

実際に到達した津波は 1 m だったが、市内中心部が床上浸水した。自分は高台に避難し無事であった。次にどのような行動をとるか。

<解説>

- ・自宅や所属医療機関への経路の安全、家族や職員の安否、被害状況などを確認する。
- ・被災地 JMAT として活動する意志があれば、チー

ムメンバーと連絡を取り、所属都市医師会に連絡を取る。

設問3

所属医師会に連絡したが応答はなく、チームメンバーと医師会館に向かった。医師会長はまだ到着しておらず連絡もとれない。医師会館建物に被害はなく、電気は通じているが、水道は使えない。どのような行動をとるか。

＜解説＞

- ・医師会長不在のため、チームリーダーが指揮を執ることを宣言し、被災地 JMAT 立ち上げを山口県医師会に連絡する。
- ・コンタクトリストを作成し、関係機関から地域の被災状況の情報を収集する。
- ・活動に必要な資器材を準備する。
- ・クロノロジーを作成する。

設問4

発災2日目、医師会長が会館に到着し、指揮を委ねた。その後、山口県医師会から、DMAT 活動拠点本部が立ち上がった災害拠点病院に参集するよう指示があった。どのような行動をとるか。無事到着したら、どうするか。想定される活動は。

＜解説＞

○先ずどのような行動をとるか。

- ・可能であれば山口県医師会に派遣可能チームを報告する。
- ・災害診療録、紙版 J-SPEED を準備する。
- ・必要な資器材を確認する。
- ・災害拠点病院までの経路の安全を確認する。

○活動拠点本部に到着したら

- ・本部あるいは統括 JMAT に挨拶し、救護班登録を行う。
- ・自分のチーム情報を示す。
- ・自チームがこれまでに得ている現場の情報を本部等に伝える。
- ・本部から被災状況などの情報を得る。
- ・活動内容の指示を受ける。

○想定される活動

救護所設営・運営、医療機関支援、避難所スクリーニング、避難所巡回診療等

○1日の活動を終えて

- ・本部に活動を報告し、夕方のミーティングに参加する。
- ・統括 JMAT、所属都市医師会及び山口県医師会に活動内容を報告する。
- ・活動日報を作成する。

設問5

発災4日目、DMAT 活動拠点本部は地域保健医療調整本部に変更され、県内外から支援 JMAT が参集してきた。被災地 JMAT は撤収して良いと言われた。どのような行動をとるか。

＜解説＞

- ・撤収の意思を本部に伝える。
- ・活動の引き継ぎを支援 JMAT や DMAT に行う。
- ・本部に撤収の挨拶を行い、所属都市医師会や山口県医師会に撤収の報告を行う。
- ・使用薬剤・資器材の費用請求の準備を行う。
- ・活動報告を山口県医師会に提出する。
- ・自院の診療再開の準備を行う。

3. 各グループのディスカッションから

自地域被災時の所属都市医師会への連絡方法や医師会の災害本部立ち上げなど、各医師会で事前に準備されている事項が明らかでない参加者もいらした。今回のグループワークをきっかけに、平時に準備することを確認いただくと幸いである。

所属都市医師会館から遠く離れた地域の医療機関から、被災時に医師会館に参集することは困難である。無理に医師会館に出向く必要はなく、周辺の状況に合わせ柔軟に対応を選択し、ご自分の地域で JMAT 活動を開始することも考慮されたい。

DMAT と異なり、被災地 JMAT はその場に集まることができたメンバーでチームを作る可能性もある。チームとしては即席かもしれないが、日ごろの業務で見知っているメンバーが、日ごろ見慣れている地域の中で活動するので、地域の被災の状況や住民の情報を入手しやすい。被災地 JMAT が災害拠点病院に赴く意義を問うディスカッションもあったが、被災地 JMAT が本部参

集時に持ち寄る情報にも価値がある。

COVID-19 禍なので、撤収時は自分の所属医療機関に活動を報告し、勤務再開の要件を確認する必要があるというご意見もいただいた。

4. 今年度の研修会を終えて

今回の研修会は受講者に好評であり、企画側からも今年度だけでは勿体ないとの意見を得た。お力添えくださったファシリテーターの方々、準備段階から協力くださったJMATやまぐちプロジェクトチームメンバー、そして、初稿からほとんど完璧なシナリオを作られ、予定時間通りにグループワークの進行もされた野村先生に感謝申し上げる。研修会の終了時刻を延長せずに済んだのは、この数年間で初めてである。

JMATやまぐち災害医療研修会は、主にJMATやまぐち事前登録者を対象としてきた。が、被災地JMATとして活動する、しないにかかわらず、自分の働く地域が被災した時にどのようにすれば良いのか、多くの先生方にお考えいただくきっかけになるよう、来年度は事前登録の枠を外し研修の参加を募集することとしたい。

○ファシリテーター

斎藤 聡	山口県済生会山口総合病院	〔医師〕
竹中 智昭	光市立光総合病院	〔医師〕
豊田 秀二	(医) 神徳会三田尻病院	〔医師〕
中嶋 裕	山口県立総合医療センター	〔医師〕
野村 真治	山陽小野田市民病院	〔医師〕
若松 隆史	ときわクリニック	〔医師〕
桂 真佐美	山口県済生会山口総合病院	〔看護師〕
家本亜希子	家本薬局	〔薬剤師〕
佐藤 真也	徳山中央病院	〔薬剤師〕
谷村 知明	総合病院山口赤十字病院	〔ロジスティクス (業務調整員)〕
南 秀樹	周東総合病院	〔ロジスティクス (業務調整員)〕

○事前学習コンテンツ作成

藤倉 岳司	(医) 神徳会三田尻病院	〔ロジスティクス (業務調整員)〕
上野 雄史	山口県医師会	〔医師〕
前川 恭子	山口県医師会	〔医師〕



医業継承・医療連携
医師転職支援システム

〈登録無料・秘密厳守〉

後継体制は万全ですか？

DtoDは後継者でお悩みの
開業医を支援するシステムです。
まずご相談ください。



お問い合わせ先

0120-337-613
受付時間 9:00~18:00(平日)



よい医療は、よい経営から

総合メディカル株式会社
www.sogo-medical.co.jp 東証一部(4775)

山口支店／山口市小郡高砂町1番8号 MY小郡ビル6階
TEL(083)974-0341 FAX(083)974-0342
本社／福岡市中央区天神
■国土交通大臣免許(2)第6343号 ■厚生労働大臣許可番号40-ユ-010064